

シ、農業館亦陳列ヲ改ムルニ從ヒ、工藝品中陳列ニ堪ヘザルモノ、空
 シク倉庫ニ委積スルニ至ル、乃チ甄別シテ不用品類ヲ選ビ解散以
 前賣却ニ處セント欲ス、而シテ其決行ニ先ダチ寄附者ノ認諾ヲ請
 フ所ナカル可ラザルヲ以テ、七月下旬書ヲ具シテ三重縣廳ニ申請
 ス。當初受クル所七百四點、其後毀損廢滅或ハ窃盜ノ害ヲ被ルモノ
 八十七點、殘品中百八十六點ヲ存シテ陳列ニ資シ、剩ス所四百三十
 一點ヲ不用品類トス。
 二十五日、願ニ依リ徵古館管守乙部八二郎ノ辭職ヲ聽許シ、月俸一
 個月分ヲ贈與ス。
 二十八日、既往數年ニ於ル神宮補助交付額ヲ計查スルニ、命令條規
 ニ充タザル額六千百圓ヲ算ス、今ヤ事業ノ殘部ヲ整頓シテ速カニ
 獻納ヲ了セント欲スルニ方リ、資金ノ準備切要ナルヲ以テ、其事情

ヲ具シ殘額ノ下附ヲ神宮司廳ニ申請ス。

貴廳補助金、明治三十三年以來年々御交付ニ相成候處、本會ニ於テハ各府縣ノ寄附
 金豫期ノ通難相運、往々資金缺乏ノ悲境ニ遭遇シ、幸ニ御補助ニ依リテ事業ヲ經理
 シ、徵古館建築モ漸ク竣功ノ場合ト相成、來年三月ヲ期シ本會ヲ舉テ 神宮ニ獻納
 ノ義目下準備中ニ有之、就テハ先年來施行スベキ事業ニシテ、右資金薄弱ノ爲、中止
 致候同館敷地ニ接續スル風致林買收及同館陳列品ニ伴フ諸般ノ準備ヲ速カニ完
 成ノ上、奉獻致度候間、先年來御交付金不足ノ分、別紙ノ通金六千百圓ハ、特別ノ御詮
 議ヲ以テ此際御下附被成下度奉願候也

明治四十三年七月二十八日

神苑會會頭子爵 花房 義 質

神宮大宮司子爵 三室戸和光殿

(別紙)

神宮司廳補助金下附不足額年別調

- 一金四千圓也 三十五年度分不足額
- 一金壹萬圓也 三十七年度分同上

一金四千參百圓也 三十八年度分同上

計金壹萬八千參百圓也

內金九千圓 四十四年四月領收濟

金參千貳百圓 四十二年六月領收濟

差引金六千百圓也

徵古館、農業館案内(兩面刷折)ノ第二版ヲ調了シ七月末日之ヲ發行ス、
即チ兩館ノ圖畫并ニ經歷、建築、陳列等、竣成ノ實迹ニ就キテ其概要
ヲ編述セルモノナリ。

本月中、地方委員部職員ノ異動左ノ如シ。

千葉縣知事告森良ニ委員總長ヲ囑託シ其前任者ノ囑ヲ解ク

静岡縣知事石原健三ニ委員總長ヲ囑託シ其前任者ノ囑ヲ解ク

石川縣知事李家隆介ニ委員總長ヲ囑託シ其前任者ノ囑ヲ解ク

高知縣知事杉山四五郎ニ委員總長ヲ囑託シ其前任者ノ囑ヲ解ク

奈良縣知事若林資藏ニ委員總長ヲ囑託シ其前任者ノ囑ヲ解ク

富山縣知事濱田恒之助ニ委員總長ヲ囑託シ其前任者ノ囑ヲ解ク

香川縣知事鹿子小五郎ニ委員總長ヲ囑託シ其前任者ノ囑ヲ解ク

八月一日、石谷齋藏ニ徵古館管守ヲ命ジ月俸金貳拾圓ヲ給ス。

二日、理事會ヲ開キ 神宮ニ獻納スベキ會員名簿新調ノ件、倉田山
接續山林買收ノ件、同上小作山林立木買收ノ件等ヲ議ス、次デ五日、
評議員安江孝、來リ會シ、

神宮ニ奉獻スベキ準備ヲ協議ス。

十七日、倉田山庭園内茶店擔當者寺田直三郎ニ對シ、繪葉書、徵古館
列品目錄、徵古館案内ノ三品ニ限り、賣高百分ノ四ヲ改率シ、二十一
日以降其百分ノ十ヲ交付スベキ旨ヲ通達ス。

十九日、事務繁劇ノ爲、經理規則第三款第三條中ニ定ムル書記二名
ヲ三名ニ改メ、河崎又藏ヲ書記ニ任用シ月俸拾七圓ヲ給ス。

三十一日、書記、管守、守衛、小使ニ對シテ増給ノ議ヲ決シ、此日各辭令ヲ交付ス、蓋解散ノ期ニ近ヅキ事業ノ完結ヲ急トシ、自然劇務ニ服スベキガ故ナリ。

凡ソ年賦ノ寄附金未ダ完納ニ至ラザル者多シ、今ヤ其殘額ノ納否ヲ促ガシ、速カニ會員名簿ヲ整頓シテ、神宮ニ獻納ノ期ヲ愆ツナカラシムル事ヲ要ス、然レドモ解散ノ時期漸ク逼リ、未納者ヲシテ悉ク完納セシムル能ザルヲ以テ、其納否ハ一ニ本人ノ意向ニ任ジ、速クニ之ガ決答ヲ待テ會員名簿ヲ整理セント欲ス。乃チ書ヲ各府縣ノ委員部ニ發シ寄附者ニ就キテ之ヲ解決センコトヲ促ス。

拜啓貴府(縣)内ニ於テ先年寄附申込之末其半額或ハ十分ノ幾分ヲ納付ノ儘未納ニ相成候向別記ノ通、有之候處、不遠本會ヲ解散シ、成績ヲ具シ會員名簿ヲ、神宮ニ奉獻可致筈ニ有之、然ル上ハ寄附金ノ階級ニ依リ、將來、神宮ニ於ケル待遇上ニ關係有之候ニ付來ル九月末日迄ニ申込通回金ニ相成候歟、又ハ既納金ヲ以テ名簿整

理候モ本人ニ於テ遺憾無之歟、一應御體メ被下度、其邊ハ從來御配慮ヲ蒙リ候義トハ拜察仕候得共終局ノ揚合再應御手数相煩候段御諒恕何分ノ御答被下度、此段御依頼候也、敬具

明治四十三年八月二十三日

神苑會事務所

各府縣委員部宛 (別記略ス)

本月及九月十月ニ互リ地方委員部職員ノ異動左ノ如シ。

千葉縣屬高橋誠之助外一名ニ委員ヲ囑託シ其前任二名ノ囑ヲ解ク

山口縣屬一名ニ委員ヲ、同縣大島郡長熊谷直正、外郡長九名ニ委員長ヲ囑託シ其前

任委員長十名ノ囑ヲ解ク

鳥取縣知事岡喜七郎ニ委員總長ヲ囑託シ其前任者ノ囑ヲ解ク

茨城縣那珂郡長丹誠、外郡長七名ニ委員長ヲ囑託シ其前任者八名ノ囑ヲ解ク

十月三十日、多額寄附者(金五百圓)香川縣金刀比羅宮宮司琴陵光熙

ニ對シ、寄附行爲條款第七條第二項ニ基キ有功證牌ヲ交付シ、且報

功内規ニ依リ三ツ組銀盃贈進ノ件ヲ決議シ、總裁殿下ノ裁可ヲ經テ之ヲ實行ス。

十月十八日、男爵澁澤榮一ニ監事ヲ囑託セララル。

十月三十一日、東宮主事馬場三郎、宮内屬一名ヲ隨ヘ本會ニ臨ミ告テ曰ク、東宮殿下十一月十二三日ノ頃、神宮御參拜ノ途次、徵古館ニ於テ御晝餐アラセラレントス、敢テ問フ館内支障ノ點ナキヤ否ヤト、理事一同謹デ内命ヲ奉シ、鶴駕台臨ノ光榮ヲ仰ガンユトヲ答フ。次デ三重縣廳、技師、技手ヲ派遣シテ庭内ノ井水ヲ検査シ、御手洗ニハ庭内茶亭ノ井水ヲ用キ、御飲料ニハ第四中學校内ノ井水ヲ用フベキユトヲ通達セララル。

十一月三日、此日天長ノ佳節ニ當リ、宇治山田市内官公吏其他有志ノ輩、倉田山庭内ニ園遊會ヲ開ク。

十二日、評議員伯爵土方久元來ル、會頭ニ代リ鶴駕ヲ迎ヘ奉ランガ爲ナリ。

是ヨリ先キ、尾濃ノ野ニ師團特別演習ノ舉アリ、東宮殿下親シク實況ヲ見學アラセラレ、三重縣津市ニ駐蹕シ給フ、之レ神都行啓ヲ思ボシ立タレシ所以ナリ、既ニシテ行啓ヲ十四日ニ治定セララル。本會欣字章員等ニ牒知スルニ奉迎ノ事ヲ以テシ、館内并ニ庭園ヲ洒掃シテ以テ期日ノ至ルヲ待ツ、時間御豫定左ノ如シ。

山田驛御着	十四日午前八時五十一分
外宮御着	同 九時五分
同御發	同 九時三十五分
内宮御着	同 十時十五分
同御發	同 十一時十五分
皇學館御着	同 十一時三十分

同御發 同 十二時

徵古館御着 同 午後零時十五分

同御發 同 二時

第四中學校御着同 二時四十分

同御發 同 三時二十分

山田驛御發 同 三時四十五分

宇治山田市大字櫻木町松野誠一、栽培ノ菊花ヲ移植シテ御座所窓前ニ花壇ヲ設ク、御座所ハ館内ノ貴賓室トシ、室外適當ノ位置ニ松柏楓樹等ノ盆栽ヲ陳列ス。隣室ヲ供進所トシ、新調ノ机案白布并ニ厨具類ヲ置ク、第四號、第六號ノ兩室ヲ以テ供奉職員高等官ノ休憩并ニ食堂ニ充ツ、館ノ正面立關口ニ綠門ヲ設ケ、額面ニハ黃菊ヲ以テ奉迎ノ文字ヲ作り、農業館正面入口ニモ亦綠門ヲ設ク。

徵古館東端ノ出入口ヲ閉塞シテ御便器ヲ備ヘ、館外雨覆ノ下ニ御

車(御持越ノ人力車)ヲ容レ、并ニ挽手二人ノ休息所ニ充ツ。

附屬倉庫内ヲ四區ニ分テ、供奉外御附職員及拜謁ヲ賜ルベキ有位帶勳者、新聞社員等ノ控所トシ、椅子、卓、筆紙等ヲ備置ス。

道路口其他必要ノ個所ニ指導札ヲ建設シ、倉庫ノ西側ニ假小屋ヲ設ケテ車夫ノ休息所ニ充テ、又倉庫ノ東南ニ松樹ヲ植込テ以テ徵古館ヨリノ透視ヲ遮ル。

徵古館内、中央廣堂ノ列品ヲ撤シテ有位帶勳者賜謁ノ室ニ充テ、守衛室土間ノ一隅外一個所ニ湯釜ヲ備フ。

苑内ノ賣店即チ茶亭ヲ以テ本會政字章員ノ休憩所ニ充テ、其來會者ニハ折詰辨當ヲ給スルモノトシ、館ノ西端出入口前ノ道路ヲ以テ、並列奉迎ノ域トナス、其通知ヲ發セシ人員二十三名。

本會職員ハ白黃紅三種ノ徽章ヲ附シテ接待係、警備係、新聞社應接

係ノ分擔ヲ定メ、館ノ正面階下ノ西側ヲ以テ並列奉迎ノ域トス。本會紀念ノ爲メ松樹ノ御手植ヲ仰ギ奉ラント欲シ、北米國原産ストロープ五葉松一株ヲ選ブ。

十二日以降、普通觀覽人ヲ謝絶シ又新ニ砂礫ヲ調ヘテ御通行ノ道路ニ撒布ス。

右列舉スル所ノ準備既ニ調フ。

十四日好晴

東宮殿下、神宮御參拜ノ後、午後零時二十五分、警部一名先驅、供奉職員、東宮武官長兼東宮大夫男爵村木雅美、東宮侍從長公爵一條實輝、東宮主事馬場三郎、東宮侍從田内三古、侍醫伊勢錠五郎、東宮武官千坂智次郎、東宮武官本城幹太郎、主馬寮技師根村當守、東宮侍從原恒太郎、同本田正復、三重縣知事有田義資、外地方官數名ヲ從ヘサセ

ラレ、御車ニ召シテ倉田山ニ御着アラセラル。

本會職員并ニ創立員等恭ク徵古館前庭ニ奉迎ス、殿下直ナニ館内貴賓室ニ入ラセラレ、御晝餐ヲ聞食サル、供奉諸員亦各午餐ニ就ク。評議員伯爵土方久元、會頭ニ代リテ館ノ内外ヲ御先導シ奉リ、理事田中芳男、扈從シテ列品ヲ説明シ奉ル、殿下親シク館内各室ヲ台覽アラセラレ、須臾ニシテ還啓ニ方リ玉步ヲ庭園ニ移シ給フ、土方伯奏請スラク、本會永ク今日ノ光榮ヲ紀念セント欲ス、伏シテ願クハ龍幹一株ヲ庭内ニ栽シ給ハンエトテ、臣敢テ職員一同ノ情願ヲ具シ奉ルト、殿下直ナニ嘉納アラセラレ、御手ヅカラ竹片ヲ把リテ館ノ前庭ニストロープ五葉松一株ヲ栽植シ給フ、次デ途スガラ農業館ニ台臨アラセラレ、館内列品及中庭ノ果樹園亦台覽ノ榮ヲ辱フス、時ニ園裡ノ柑橘實ヲ結ベリ、田中理事其成熟セルモノニ

三種ヲ摘ミテ獻納ス、午後一時五十分、同館ヲ發シ、第四中學校ニ向ハセラル、職員及創立員等館外路傍ニ奉送ス。此日、本會獻上スルニ徵古館、農業館寫眞二枚、庭園寫眞一枚、徵古館列品目錄一冊、繪葉書七組ヲ以テス。
殿下、金百圓ヲ本會ニ賜ヒ、又特ニ土方伯ニ酒饌料五拾圓ヲ、田中理事ニ同金貳拾五圓ヲ賜フ。

御手植松略説

明治四十三年十一月十四日、本會倉田山庭園ニ於テ皇太子殿下御手植ノ光榮ヲ得タル、ストロブ五葉松(Pinus strobus, L.)ハ、北米東部原産ノ松ノ一種ニシテ細長ナル枝極ヲ多數ニ發生シ、之ニ柔軟ニシテ芳香アル稍短キ五個ヅ、ノ針葉ヲ着生ス、其性强健ニシテ孤立スルモ善キ單幹ヲナスヲ以テ、庭園樹トシテ良好ナリ
其材ハ膨脹割裂反卷ノ患少ク彈性及ビ屈撓性ニハ稍缺クル所アルモ、乾氣中ニア

リテ保存期間長キヲ以テ、建築材ニ適ス

此樹ハ寒温兩帶ノ造林ニ可ナルガ故ニ、我邦四國九州ノ高地ヨリ北海道ニ至ルマデ之ヲ植ウルヲ得ベシ

行啓既ニ了リ本會無限ノ光榮ニ浴スルヲ得タリ、土方伯即チ午後六時三十五分ノ發車ヲ以テ歸程ニ就ク。

十一月二十九日、評議員會ヲ東京ニ開キ、四十四年度經費豫算、經理規則及贈給規則中ノ改定、徵古館、農業館職制ノ改定、本會解散ニ關スル諸件、地所賣買ニ關スル件、其他重要ノ會務ヲ評決ス。

本月中、地方委員部職員ニ在テハ茨城縣東茨城郡、鳥取縣西伯郡ニ委員長各一名ノ異動アルノミ。

十二月五日、田中芳男ニ農業館監督ヲ、桑原芳樹ニ徵古館監督ヲ囑託ス、是ヨリ先キ理事田中芳男、兩館ヲ監督シ、貴族院ノ餘暇、毎ニ來リテ職務ニ從事ス、客月、兩館ノ職制ヲ改メ、各監督一名ヲ置クニ決

セリ、茲ニ 總裁殿下ノ裁可ヲ仰ギ本日辭令ヲ交付セラル、ニ至ル。

此日、高橋友雄ニ農業館主事ヲ、井村爲藏外三名ニ同館管守ヲ命ジ、石谷齋藏ニ徵古館主事ヲ、楠田兵治外二名ニ同館管守ヲ命ズ、主事以下俸給各差アリ。

徵古館、農業館職制

第一條 徵古館役員左ノ如シ

監督 一人

主事 一人

管守 四人

第二條 農業館役員左ノ如シ

監督 一人

主事 一人

管守 四人

第三條 監督ハ會頭ノ命ヲ受ケ、館内一切ノ事務ヲ管理ス

第四條 主事ハ上長ノ命ヲ受ケ、其管内物品ノ管理及一切ノ事務ヲ整理ス

第五條 管守ハ監督又ハ主事ノ命ヲ受ケ、其館内物品ノ保護、館内外ノ取締及雜務ニ従事ス

附則

本職制ニ抵觸スル規定ハ本制施行ト共ニ改マルモノトス

神奈川縣委員總長ノ稟請ニヨリ、總裁殿下ノ裁可ヲ仰ギ、同縣横濱市金子政吉ニ銀盃ヲ贈進ス、其寄附金參百圓ノ納付ニ對シ、規定ノ旌表ヲ行フ所ナリ。

地方部中、神奈川縣實收額貳萬圓以上ニ達シ成績最優ニ位セルヲ以テ、同縣委員總長周布公平ニ贈ルニ金盃ヲ以テスルユトヲ裁可セラル。

東京市富豪男爵岩崎久彌ノ寄附金五千圓ニ對シ、報功内規ニ基キ有功證牌及神苑圖誌贈進ノ件亦裁可セラレ。

十五日、倉田山造營物件并ニ土地保護ノ爲メ、引續キ四十四年一月以降三月末日ニ至ル迄、請願巡查三名ノ派遣ヲ出願ス。

明治四十四年一月一日、新年拜賀ノ式ヲ舉ゲ、大々神樂ヲ 内宮ニ奉奏スルコト例年ノ如シ。

本會解散ノ内議ニ基キ、本月以降處理ノ事項、多クハ之ガ準備ニ屬ス。

二月二十六日、宇治山田市西田貞助ヨリ宮崎文庫ノ書籍及什物買收ノ契約ヲ了シ、此日現品ノ臨檢ヲ遂ゲ先ヅ其什物ヲ本會ニ領致シ、後又其書籍ヲ神宮司廳ニ運搬ス、即チ其什物ハ徵古館ニ陳列シ書籍ハ 神宮ニ獻納シ、永久保存ノ道ヲ悃請ス、右宮崎文庫ハ高倉

山ノ東端宇宮崎ノ平野ニ在リ、昔者、慶安年間、外宮神官出口延佳、與村某、岩出某等、同志七十餘名相醜シテ之ヲ創設ス、後世學堂ヲ増設シテ神官子弟ノ修學ニ資セリ、徳川幕府采地ヲ賜ヒ、遠近ノ諸侯及有志ノ輩亦典籍什器ヲ寄贈スル者多シ、皆是レ 神宮ニ獻納ノ意思ニ出ル者ナリ、茲ニ至リテ藏書豐富、就中漢籍最モ備ハリ、古文尙書ノ如キ、皇清經解ノ如キ、又刀劔ニ在テハ藤原秀郷佩刀ノ如キ、實ニ得難キノ珍什ト謂フベシ、其結社ノ儕輩ヲ呼デ籍中ト稱ス、明治維新以降、籍中概ネ流離シ、學堂火ニ遇ヒ、庭園殆ド荒廢、僅ニ二三ノ委員ニヨリテ書庫并ニ庭園ヲ管理スルアルノミ、而シテ公衆輒ク觀ルコトヲ得ズ、典籍漫ニ蝨蝕ニ委スルノ概アリ、輓近之ヲ 神宮ニ獻ゼントスルノ說アルヲ聞キ、竊ニ處決其當ヲ得ルヲ喜ビタリキ、何ゾ料ラン其所藏ヲ舉テ一私人西田貞助ニ賣却シ了セントハ、

物件既ニ西田ノ掌裡ニ落ルヤ、展轉沽却恐ラクハ珍什忽テ四散セ
ンコトナ、是豈創建者并ニ寄贈者ノ本意ナランヤ、本會理事之ヲ憂
ヒ、客冬以來外ハ西田ニ交渉シテ其轉賣ヲ防止シ、内ハ神宮司廳ニ
稟議ヲ盡シテ之ガ買收ヲ謀リ、内外協定遂ニ現品ノ受授ヲ了スル
ニ至ル。當時其庭園ヲ併セテ本會ニ收受セント欲セリ、現有者西田
貞助他日之ヲ宇治山田市ニ寄贈センコトヲ言明ス、本會大ニ其意
ヲ諒トシ代金壹萬七千圓ヲ以テ書籍什物ヲ收メ、庭園ハ則チ西田
ノ素志ヲ行フニ委ス、書籍實ニ一萬八千餘冊、什物二十八點トス。
二見浦賓日館賣却處分ノ件ハ、明治三十六年ノ裁決ニ係リ、爾來未
ダ決行ノ機ヲ得ズシテ二見町若松德平ニ貸與スルコト數年、本年
一月以還交渉數次、本月ニ至リ其土地建物ヲ併セ代金壹萬六千圓
ヲ以テ若松德平ニ賣却ス。

二月二十一日、本會今ヤ目的事業ヲ奏成シ又存立ノ必要ヲ認メザ
ルヲ以テ、其解散期ヲ本年三月三十一日トシ、期ニ及ビ既成ノ全績
ヲ舉テ 神宮ニ獻納セント欲ス、蓋寄附行爲條款第二條ノ趣旨ヲ
決行スルニ在リ、理事既ニ内議ヲ定メ次デ評議員ノ決議ヲ經タリ、
會頭乃チ之ヲ稟具シ、三月三日 總裁殿下ノ裁可ヲ仰グヲ得タリ。
解散期日ノ裁可ニ先ダテ理事會ヲ開クコト數次、終局ノ處理順序
ヲ審議シ、神宮司廳ニ對シテ知照并ニ申請ヲ要スル事項ト共ニ、解
散後、本會清算人ニ於テ繼續處理スベキ事務ヲ定メ、三月十三日、本
會希望ノ條件ヲ具シテ奉納申請書ヲ提出ス。

神苑會事業完成物件奉納ニ付申請

本會創設以來茲ニ二十有五年、義質等 總裁宮殿下ノ令旨ヲ奉ジ、謹デ目的ノ事業
ニ從ヒ、意ヲ 神威顯揚ノ道ニ致シ、カヲ靈境風致ノ保存ニ盡シ、忝クモ 皇室ノ御

下賜金ヲ始メ、御廳補助金及大方有志家ノ寄附金ニ依リ、拮据經營、幸ニ當初ノ目的ヲ貫徹スルニ相至リ候ニ付、本會寄附行爲條款第二十二條ニ依リ、本月三十一日本會ヲ解散可致候、依テ同條款第二條及明治三十三年御命令書第七條ニ基キ、本會所有土地營造物及之ニ屬スル一切ノ物件ヲ、本月三十一日現在ノ儘、舉テ之ヲ奉納致度候ニ付、御認可相成度、別冊奉納物件目錄并ニ參照書相添、本會希望ノ條項ヲ具シ、此段申請候也

明治四十四年三月十三日

神苑會會頭子爵 花房 義賢

神宮大宮司三室戸和光殿

今後ニ於ケル本會希望ノ條項

- 一 倉田山庭園ハ神宮別區トシテ公園ニ準ジ使用ノ途ヲ開カレ度事
- 一 徵古館農業館及庭園維持ニ付テハ、能フベキ限り兩館ノ擴張ヲ計ラレ度事
- 一 本會職員ハ解散同時消滅スル義ニ候ヘ共、現在事業ニ從ヘル役員ハ、御差支無之限リ繼續御使用相成度事
- 一 本會待遇規則第十一條、第十二條、第十三條ノ待遇ハ、獻納後ト雖モ御繼續相成度

事

一 現在評議員、理事及監事ハ神宮職員同様撤下御物拜觀所及徵古館、農業館各所ノ觀覽ヲ爲シ得ベキ特典ヲ與ヘラレ度事

奉納物件目錄

- 一 總裁宮令旨謄本
- 一 會計報告書
- 一 徵古館列品臺帳附出品目錄及預リ證原簿
- 一 農業館列品臺帳附同上
- 一 圖書目錄
- 一 會員名簿
- 一 事務所備品目錄
- 一 徵古館、農業館備品目錄
- 一 建物臺帳
- 一 土地臺帳(附土地登記謄本、同獻納證書、同所有權移轉登記囑託ニ要スル承諾書)

一 神都全圖

一 倉田山見取圖

一 神苑會諸規則

一 庶務會計諸帳簿

一 神苑會職員錄

左記五件ハ着手中ニ屬スルヲ以テ、民法第七十八條ニ基キ終了ノ上、清算人ヨリ奉
獻致度候

一 前總裁宮及現總裁宮御銅像建設

一 徵古館窓締增加工事

一 神苑會記建碑工事

一 會計收支決算殘餘金品

一 神苑會史料編纂ノ件

(參照)

神苑會會員證牌及待遇規則抄出

第十一條

本會ハ之ヲ存續スル限リハ第十二條以下ノ規定ニ依テ會員ヲ待遇ス
數人組合又ハ團體ヲ以テ會員トナリタルモノハ、其中ノ誰タルヲ問ハズ、證牌ヲ
所持スルモノヲ代表者トシテ待遇ス

第十二條

正會員ニシテ家族親戚朋友ヲ同伴參宮スルトキハ、左ノ制限ニ依リ本人ニ準ジ
テ待遇ヲナス

有功證牌佩用者 二十五名限

黃紐總證牌佩用者 十二名限

紫紐總證牌佩用者 八名限

紅紫紐總證牌佩用者 五名限

紅紐總證牌佩用者 三名限

第十三條

會員ハ、神宮撤下ノ神寶ヲ拜觀スルコトヲ得、但其場合ハ會員證牌又ハ事務所

ノ證明書ヲ携帶スルヲ要ス

三月二十五日、定例ノ新聞紙ヲ以テ四十三年中ノ會務成績并ニ會計決算ヲ報告ス。

明治四十四神苑會會務成績

徵古館列品ハ學藝委員ノ出張ヲ得テ益完備ノ域ニ達シ、同館庭園ハ技師出張ニ依リ樹木景石ノ位置等漸次其體面ヲ改メ、倉田山接續山林ハ之ヲ買收シテ區畫ヲ補正シ、内宮宮域接續地ノ買收ハ、宮域ノ恢弘ニ供シ、不用ニ歸シタル黒瀬所有地ハ之ヲ賣却シテ着々事業ノ整頓ヲ期シタリ、而シテ徵古、農業兩館ノ觀覽者ハ往年ニ比シ次第ニ其數ヲ増加シ、府縣有志ノ寄附金亦少カラズ、茲ニ本年度ノ會計收支決算額ヲ揭示スル事左ノ如シ

明治四十三年度(自十一月)會計決算

一前年度ヨリ繰越金	一六、一八二・二九〇
一歳入	六六、四五八・八九五

内

神宮司廳補助金	二七、五五〇・〇〇〇
賜金	三、一〇〇・〇〇〇
寄附	二八、九六〇・四八九
徵古館、農業館收入	二、八四七・四二五
地所收入	九九三・五七〇
賓日館收入	三九〇・〇〇〇
事務所雜入	七八一・二五一
資財收益	一、二八二・五八〇
雜收	五五三・五八〇
繰越金及歳入合計	八二、六四一・一八五
一歳出	三〇、二四八・九六二
内	
奠供費	二〇、〇〇〇

宮城整理費

二、三二、一四〇

徵古館興業費

一、一八、一八四、四六

徵古館費

二、一四、一四一〇

農業館費

二、五八、九一、五四

事務所費

三、二一、八八、七一

賓日館費

二、二八〇〇

地所費

五四〇〇

委員部費

七、九九、九五、九六

會員募集費

四、二二、〇〇、五

待遇費

一、七六、四七〇

雜出

一、六〇、三六七〇

一次年度へ繰越金

五、二、三九、二、二二三

右神苑會會員諸君へ報告ス

明治四十四年三月

神苑會

撤下御物拜觀所ノ後方部即チ國道ヲ挾ミテ徵古館背面ニ對スル
 丘陵ハ、本年一月以來修理ヲ施シ、頃日稍苑林ノ風趣ヲ具フルニ至
 ル、解散期日ト共ニ之ガ成功ヲ待ツ所ニシテ、爲ニ國道ニ對スル觀
 ナ修ムルヲ得タリ、又拜觀所前面庭園ニ接續シテ尙買收ヲ要スル
 若干歩ノ地域ハ、本會既ニ買收ノ議ヲ決シ、現地主ト交渉中ニ屬ス、
 即チ解散後繼續工事ノ一ナリ。

總裁殿下御銅像(故大宮及現宮御ニカ)ハ御等身大ノ立型ニシテ、最良質ノ大理
 石ヲ礎トシ、徵古館貴賓室内ニ奉置セント欲ス、今東京ニ於テ調製
 中ニ屬セリ亦是繼續工事ノ一ナリ。

神苑會記ノ碑石ハ陸前産井内石高サ二丈餘、幅七尺餘、其臺石ハ四
 國産花崗石ヲ用キ、東京ニ於テ鏤刻中ニ屬ス、其題額ヲ 總裁殿下
 ニ請ヒ奉リ、股野琢ノ撰文并ニ書スル所ナリ、竣工回送ヲ待テ庭園

適當ノ位置ニ建立セントス、亦是繼續工事ノ一ナリ、其碑文左ノ如シ。

神苑會記 海軍大將大勳位功三級威仁親王題額

天祖建極垂統、德配天地。神宮之尊嚴、億兆崇敬焉。迨王綱解紐、武臣專權、禁制漸弛。至有褻瀆靈境者、可勝歎哉。明治維新、百度更革。此地未復古、鄉人夙圖廓清。十九年遂創設神苑會、百方經紀、事始就緒。朝廷賜金、神宮司助資、會員頓加、贖金亦不尠。因奉有栖川宮爲總裁、囑顯官名士、分擔會務。於是在 內宮、撤民屋五十六戶、拓土七千五百三十步。在 外宮、撤民屋百二十七戶、拓土一萬二千五百七十一步。開園地、植花木、以爲神苑。旁購山林五十萬餘步之地、以添 內宮風致。又買收倉田山、凡三萬餘步、誅荆棘、填豁壑、剏建徵古農業二館、品彙類集、以供衆庶觀覽。靈境之宏麗、莊嚴、迥軼前日。神苑會之功、可謂偉矣。頃者會員胥謀、欲樹石勒記、以傳于後。徵余文、乃敘其梗概云。

明治四十四年三月 帝室博物館總長正三位勳一等 股野 琢 撰并書

誠 致 敬 崇

(面 表)

裏)

(面

- 會頭從二位勳一等子爵 花房 義質
- 副會頭正三位勳一等男爵 周布 公平
- 理事從三位勳二等 小松原 英太郎
- 理事從三位勳一等 田中 芳男
- 理事從五位勳五等 桑原 芳樹
- 專務理事從六位勳六等 滿岡 勇之助
- 理事 太田 小三郎
- 評議員正二位勳一等伯爵 土方 久元
- 評議員正四位勳三等 有田 義資
- 評議員正四位勳三等 斯波 淳六郎
- 評議員從四位勳三等法學博士 水野 鍊太郎
- 評議員從二位勳六等子爵 三室 戶和光
- 評議員從三位勳三等 山崎 直胤
- 評議員正六位勳五等 安江 孝

評議員從五位勳六等 木野 戶勝 隆

監事從四位勳三等 馬場 三 郎

監事從三位勳二等男爵 澁 澤 榮 一

監事勳三等 大谷 嘉兵衛

徵古館規模構造ニ關シテハ更ニ間然スル所ナシト雖モ、曩ニ東京博物館ノ盜難ニ鑑ミ、一層窓戶取締ノ嚴重ヲ盡サンガ爲メ、評議一決豫算金貳千參百餘圓ヲ追加ス、其設計調査殆ンド成ルト雖モ、成工ノ期、解散ノ後ニ追ブベシ、亦是レ繼續工事ノ一ナリ。本會歴史ハ解散後初メテ完結スルヲ得ベシ、今專ラ編纂中ニ係ル、乃チ繼續事項ノ一ニ居レリ。

繼續工事并ニ現務ノ終結ニ至ルマデ、尙支出ヲ要スル科目少カラザルヲ以テ、遽カニ現殘金ヲ舉テ納付シガタシトス、是レ清算結了ノ日ヲ以テ殘贏ノ全部ヲ引渡サント欲スル所ナリ。

客臘、彰功ノ典ヲ決セシヨリ、終局ノ調査并ニ贈品ノ製作ヲ告ルニ從ヒ、其贈進ヲ實行セシモノ本月中皆完了ヲ告グ、地方部ニ在テハ周布神奈川縣委員總長ニ對スル金盃ヲ首トシ、東京府外二十縣委員總長ニ對シテ、黃紐證牌及銀盃ヲ贈進シ、創立功勞者ニ在テハ、数字證牌拜授者太田小三郎外五十一名ニ各銀盃ヲ贈進ス、此他地方部委員副總長若クハ特別功勞者ニ、證牌或ハ銀盃ヲ贈進セシ者十餘名、初メ行賞ヲ議スルニ當リ、頒ツニ金品ヲ以テセントスルノ説ナキニ非ズ、然レドモ本會ノ舉素ヨリ臣民報國ノ至誠ニ出ヅ、其能ク有終ノ美ヲ奏セシ所以ノ者ハ、實ニ是レ神明ノ感應ニ由レリ、安ンゾ世ノ營利事業ト同視スベケンヤ、若夫地方委員部ニ對シ内規ノ彰功ヲ行フハ固ヨリ可ナリ、自餘發起者又ハ會務ニ功績アル者

ニ金員ヲ頒ツガ如キハ、斷乎トシテ其不可ヲ唱フル者多ク、遂ニ彰功ノ微典ヲ布キ、各階級ニ應ジテ金銀盃ヲ贈與スルニ止ム、議茲ニ決シ、總裁殿下ノ裁定ヲ仰ギ、本月ヲ以テ之ヲ決行シ了ル。解散期接近ノ爲、正副會頭來リ、次デ評議員土方伯、同安江孝來リ會ス、理事并ニ事務員等專ラ解散ノ準備ニ忙ハシ。

三月三十日、本會掉尾ノ事業トシテ神苑文庫建設ノ議ヲ決ス、蓋圖書館建營ノ事ハ創立當初ノ唱道ニ係ルト雖モ、神苑成功以降、專ラ全力ヲ徵古館ニ傾注シ、竟ニ圖書館ノ計圖ヲ施スニ違アラズ、是レ財計ノ餘地ヲ認メザリシニ由ルモノナリ、今ヤ幸ニ數萬ノ現金ヲ擁シ、清算後猶其大部分ヲ殘贏セントス、宜ク解散ニ先ダテ當初ノ希望ヲ徹底スルニ躊躇スル事ナカルベシ、本會頃日宮崎文庫ノ書籍ヲ獻納セリ、之ニ併スニ元林崎文庫ノ藏書及本會ノ藏書等ヲ以

テセバ一大文庫ノ資質既ニ備ハレリト謂フベシ、今之ガ容器ヲ完設スルノ舉ハ、神宮司廳モ敢テ否認セラル、所ニ非ルベシ、乃テ繼續事業トシテ本會之ガ設計ノ調査ニ任ジ、其豫算ヲ概定シテ金貳萬五千圓トシ、設計成ルヲ待テ庭園内適當ノ位置ニ建設センコトヲ希望ス、因テ評議員ノ議決ヲ以テ奉納申請書ヲ提出スルコト左ノ如シ。

奉納申請書

本年本月十三日付第三六號ヲ以テ、本會ヲ解散シ諸物件奉納ノ義及申請置候處、尙又今般神苑文庫新設并ニ土地買入等、別紙ノ通、本會評議員會ニ於テ決定仕候間、清算人ニ於テ夫々事業成功ノ上、追テ奉納ノ手續ニ及ブベク候條、此段申請候也

明治四十四年三月三十日

神苑會會頭子爵 花房 義 質

神宮大宮司子爵三室戸和光殿

(別紙)

- 一 神苑文庫ヲ徵古館庭園内ニ建設ノ件
- 一 農業館裏手ノ周圍取締工事ノ件
- 一 徵古館前面ニ樹立スル杉林及其地所買入ノ件
- 一 撤下御物拜觀所前面畑地買入ノ件

此日、地方部委員總長ニ對シ解散決行ノ期日ヲ通牒シ了ル。
 次デ又内務大臣ニ對シ本會解散ノ事ヲ出願ス。

神苑會解散願

本會寄附行爲條款第二十一條及第二十二條ニ依リ、本月三十一日ヲ以テ解散致度候ニ付御認可相成度、別紙評議員決議書并ニ總裁ノ認可書相添、此段奉願候也

明治四十四年三月

神苑會會頭子爵 花房 義質

内務大臣法學博士男爵平田東助殿

(總裁認可書評議員決議書略ス)

三十一日、徵古館前ニ解散ノ式ヲ行ヒ、茲ニ本會有終ノ局ヲ結ブ、此

日、朝雨初メテ霽レ西風稍強シ、式ニ先ダテ午前八時 外宮ニ、同十時 内宮ニ、特別大々神樂ヲ奉奏ス、豫メ通知スル所ニ從ヒ來賓及職員、啟字章會員、宇治山田市名譽職員等、參列スル者殆ンド百名、正午神樂既ニ訖リ、宇治橋畔旅舎澤瀉ニ行厨ヲ開キ、又再ビ倉田山ニ會ス。

式場ヲ徵古館正面階上ニ定メ、中央ニ卓一個ヲ置キ覆フニ白布ヲ以テス、午後二時、階上階段ニ互リ左右前三面ニ並列ス、專務理事滿岡勇之助、事業成績ノ要綱ヲ報ジ、既ニ當初ノ目的ヲ完遂セルガ爲メ、寄附行爲條款ノ規定ニ基キ茲ニ解散ヲ行フモノトシ、今ヨリ其式ヲ開始スル旨ヲ告グ、會頭子爵花房義質、恭ク 總裁殿下ノ令旨ヲ朗讀シ、副會頭男爵周布公平、會頭ニ代リテ答辭ヲ朗讀ス、來賓三重縣知事有田義資、宇治山田市長北川矩一、發起人總代藤井清司、交

祝詞ヲ朗讀シ、式茲ニ終リテ一同階前ニ整列撮影ス、午後五時、祝宴ヲ五二會館樓上ニ開ク、卓ニ列スル賓主合セテ百八名、宴闌ハニシテ花房會頭來賓ニ演テ曰ク本會有終ノ美克ク今日アルヲ致セシモノハ、洵トニ是レ諸君ノ翼贊ニ依ル所、不肖義質乏キヲ故吉井伯ノ後ニ承ケ、會務ニ奔走スル事殆ンド二十年、幸ニ事績ヲ終結シテ諸君ト壽ヲ交スルヲ得タルハ、滿腔ノ懽喜ニ併セテ深ク感謝ヲ表スル所ナリト、次デ周布副會頭ノ發聲ニ和シ賓主齊シク 總裁殿下ノ萬歲ヲ三唱ス、田中理事、農業館ノ來歴ニ關シテ演說スル所アリ、既ニシテ賓主各歡ヲ盡シ午後八時散會ス。

今旨

本會ノ創立以來茲ニ二十有五年、上ハ

皇室ノ恩賚ヲ荷ヒ、下ハ全國會員ノ贊同ニ依リ、神宮司廳特別ノ

補助ヲ得テ以テ 兩宮神苑及徵古、農業ノ二館ヲ經營シ、之ヲ神宮ニ奉納セリ、本會ノ目的已ニ達シタルヲ以テ解散ノ式ヲ舉グ、余ハ本部及地方ノ職員諸子ガ、黽勉事ニ從ヒ克ク其功ヲ成シタルヲ嘉シ、且ツ余ガ 前總裁熾仁親王ノ遺緒ヲ繼ギ、此終局ヲ觀ルヲ得タルヲ喜ブ。

明治四十四年三月

神苑會總裁 威仁親王

答 辭

本會業ヲ創ムル、規模恢宏ニシテ前途甚ダ悠遠ナリ、忝クモ

總裁殿下

前總裁故宮殿下ノ懿旨ヲ紹述シ賜ヒ、義質、前會頭ノ後ヲ繼ギ乏キヲ會頭ニ承ケ、屢々台命ヲ奉ジ、當局ノ諸員ト俱ニ日夜惕勵シ、

兩宮ノ神苑及徵古、農業ノ二館ヲ新設シ、之ヲ 神宮ニ奉納シテ本會事業ノ完成ヲ告グ、而シテ 神德ヲ顯揚シ、國民忠愛ノ精神ヲ發揮スルニ於テ聊カ資スル所アラ

ハ則チ何ノ幸カ如之、今茲ニ解散式ヲ舉グルニ方リ、優渥ナル令旨ヲ賜リ、益々恐惶ノ至リニ堪ヘズ、所謂終ヲ知テ義ヲ存シ謹デ殿下ノ隆旨ニ副ハンコトヲ期ス、伏テ奉答ス

明治四十四年三月三十一日 神苑會會頭從二位勳一等子爵花房義質

祝 辭

神苑會委ニ 神宮ノ神德ヲ顯揚シ、國民忠愛ノ精神ヲ發揮スルノ趣意ヲ以テ起リ、神宮ノ宮域及 神苑ノ規模ヲ恢弘シ、徵古館農業館ヲ開キ、神宮撤下御物拜觀所ヲ建設スル等、着々トシテ創始ノ目的ヲ實現シ來リ、今ヤ其ノ事業ノ成功ヲ機トシ、舉ゲテ之ヲ 神宮ニ奉獻シ、本日ヲ以テ解散式ヲ舉行セラル、實ニ有終ノ美ヲ濟スモノト云フベシ、本官亦此盛典ニ列ス、何ノ光榮カ之ニ如カンヤ、因テ一言ヲ述ベ謹テ祝意ヲ表ス

明治四十四年三月三十一日 三重縣知事正四位勳三等有田義資

祝 辭

財團法人神苑會今ヤ當初ノ目的ヲ完成シ、本日茲ニ盛儀ヲ舉ゲラル、賀慶何ゾ如カ

ン、願レバ明治十九年、有志ノ主唱シ本會ヲ創設スルヤ、爾來二十有餘年、孜孜施設ニ昂メ、時ニ或ハ經濟界ノ不振ニ逢遭シ、或ハ職員ノ交迭ヲ屢セシム、戴クニ 總裁宮殿下ノ隆威盛德ヲ以テシ、統ルニ正副會頭閣下、評議員土方閣下、并ニ自餘ノ職員諸賢ノ熱誠ナル董督ニ因リ、茲ニ萬般ノ事務ヲ了ヘ、其成績ヲ舉ゲテ之ヲ 神宮ニ奉獻スルト共ニ、本日ヲ以テ本會ヲ解散スルノ機運ニ遭フ、噫、惟レ惜ニ 神德ヲ顯揚シ奉リ、國民忠愛ノ精神ヲ發揮セシノミナラズ、延ヒテハ市ノ發展ヲ助長セシモノト謂フベシ、語ニ曰ク凡ソ事ノ成ルハ成ルノ日ニ成ルニ非ズト、本會茲ニ空前ノ美績ヲ舉グ、一ニ 總裁宮殿下并ニ職員諸賢、拮据經營ノ賜ニアラズシテ何ゾ、短一乏ヲ本市長ニ承ク、豈歡喜セズシテ止ムベケンヤ、茲ニ市民ヲ代表シ謹テ盛儀ヲ祝ス

明治四十四年三月三十一日 宇治山田市長 北川 矩一

祝 辭

神苑既ニ成リ、倉田山亦新ニ壯觀ヲ具フ、本會ノ事業於是乎完了シ、本日解散ノ式ヲ行ヒ、現績ヲ舉テ之ヲ 神宮ニ獻納セラル、顯ナル哉、允ナル哉、有終ノ美克ク此ノ如キヲ濟ス所以ノ者ハ戴クニ 總裁宮殿下ノ盛德ヲ以テシ、會頭子爵花房閣下、副會

頭男爵周布閣下、并ニ評議員理事諸君、至誠一貫朝野ノ協贊ヲ博シ、統理ノ職責ヲ竭サレタルニ由ル、殊ニ創立以來今日ニ至ル迄、深ク伯爵土方閣下、指導啓沃ノ賜ヲ謝セズンバ、アラザルナリ、生等蹇蹇敢テ創始ニ從事ス、固ヨリ端緒ヲ經紀セシニ過ギズ、今茲ニ終局ノ盛儀ニ陪シ、滿場濟々ノ士ト共ニ、令旨ヲ拜スルノ榮ヲ辱フス、衷心肅雖トシテ、轉々感喜ニ堪ヘズ、謹デ賀悃ヲ表白ス

明治四十四年三月三十一日

神苑會發起者總代

藤井清司

本會解散ニ伴ヒ、獻納物件ノ引渡ヲ要ス、其物件目錄ハ、既ニ本月十三日ノ獻納申請書ニ掲グル所ノ如シ、即チ解散ノ翌日四月一日ヲ以テ之ヲ神宮司廳ニ繼承セラル、モノトス、是ヨリ先キ神宮司廳ハ、權禰宜山口弓之助ヲ派シテ豫メ繼承ノ順序ヲ講シ、庶務課ノ所屬トシテ倉田山ニ於ル造營物件ノ一切ヲ處理セリ、是レ本日解散ニ臨ミテ、遽カニ錯雜ヲ來サ、ル所以ナリ、本會書記、備員、兩館主事、管守以下、更ニ神宮司廳ノ所管ニ服シ、從來ノ事務室ヲ劃シテ清算

事務所ニ充ツ。

明治三十六年以來、本會ノ組織ヲ財團法人トセルヲ以テ、民法ノ規定ニ從ヒ、現在ノ理事ヲ舉テ神苑會清算人トス、所謂清算人ノ職務ハ、民法第七十八條ニ規定セル(一)現務ノ結了(二)債權ノ取立及ビ債務ノ辨濟(三)殘餘財産ノ引渡是也、一切ノ殘務ヲ包括シテ此三項ニ歸納スルニ過ギズト雖モ、苑地補修ノ殘工事、其他全體ノ庶件ヲ完遂スルハ、之ヲ數月ノ後二期セザルベカラズ、茲ニ三月盡日ヲ以テ財團法人神苑會ノ成功終局ヲ告グルニ際シ、清算人ニ屬スル行爲中ノ要目ヲ左ニ列擧ス。

神苑會清算事務所經理要目

- 一 內務大臣ニ對スル解散書類調理ノ事
- 一 山田區裁判所ニ對スル解散登記申請ノ事
- 一 解散ノ廣告

- 一 民法ノ成規ニ據リ債權債務ニ關スル催告通牒并ニ其一切ヲ處辨スル事
 - 一 明治四十四年一月ヨリ三月末日ニ至ル會務成績并ニ會計決算報告
 - 一 成業ニ從ヒ清算人ヨリ 神宮ニ奉獻ノ事項
 - (一) 前總裁宮及現總裁宮御銅像建設
 - (二) 神苑會記ノ建碑
 - (三) 神苑會史料ノ編纂
 - (四) 徵古館窓締及出入口扉增加工事
 - (五) 農業館裏手周圍取締工事
 - (六) 徵古館前面杉林并ニ其地ノ買收
 - (七) 撤下御物拜觀所前畑地ノ買收
 - (八) 神苑文庫ノ設計
 - (九) 會計收支決算殘餘金品
- 一 解散報告書ノ調製及清算終了ノ廣告
- 右解散報告書ハ一切ノ要綱ヲ網羅セルヲ以テ事重複ニ互ルモノアリト雖モ其

全文ヲ掲ゲ且本年一月以降三月末日ニ至ル會務成績并ニ會計決算ヲ載セテ以テ本史ノ結尾トス

神苑會解散報告書

神苑會會務成績

本會ハ明治十九年六月ノ創立ニ係リ、越テ二十二年ニ至リ規劃ヲ定メ、全國有志ノ協贊ヲ得テ

有栖川宮殿下ヲ總裁ニ推戴シ、名望有爲ノ士ヲ職員ニ推薦シ、同三十六年民法ノ規定ニ基キ財團法人ヲ組織シ體制ヲ改メ、遂ニ克ク事業ヲ完成シ當初ノ目的ヲ達セシヲ以テ、條款第二十二條ニ依リ第二十一條ノ手續ヲ了シ之ヲ 神宮ニ奉獻シ、次デ本會ヲ解散ス、仍テ創業以來、收入、支出額及成業ノ大要ヲ舉グレバ左ノ如シ

會計 (創業以來明治四十四年三月マデノ分)

摘要		金額	
總收入額	總支出額		
七〇九、〇五三、二五七	六五〇、七四四、七七二		

收支差引残額		五八、三〇八四五
收入内譯		
賜金		一五、八〇〇〇〇
宮内省	一〇、〇〇〇〇〇	
皇太后陛下御下賜	二、五五〇〇〇	
皇后陛下御下賜	二、五五〇〇〇	
皇太子殿下御下賜	七〇〇〇〇	
皇族方御寄附金		五、六五〇〇〇
有栖川宮	三、五五〇〇〇	
久邇宮	五〇〇〇〇	
伏見宮	三〇〇〇〇	
小松宮	三〇〇〇〇	
閑院宮	二五〇〇〇	

北白川宮	二五〇〇〇	
山階宮	二〇〇〇〇	
梨本宮	一五〇〇〇	
華頂宮	一五〇〇〇	
神宮司廳補助金		二三六、九〇〇〇〇
廳府縣管内有志寄附		三〇四、三三六二五六
外國人寄附		一五四〇〇〇
事業收入		九九、六三一四四八
事務所雑入		一、七〇八一五一
資財收益		四一、八〇九四九九
雑收		二、九九七三五八
過誤拂返入		六六五四五
收入合計		七〇九、〇五三二五七

支出内譯		
奠供費御神樂料		四九八三九七
神苑興業費		一〇三、八四〇一一九
宮域補正費		一、六六八二六〇
徵古館興業費 <small>附興業館及事務所</small>		三三三、八三四〇三三
撤下御物拜觀所建設費		五、五四五六〇〇
賓日館建築費		六、五〇一一四二
黑瀬倉田山立木買上代		一一二、三〇〇
事業維持費		四二、二〇八四七三
徵古館費		五、〇一七五六三
農業館費		二五、四六〇一五九
賓日館費		九、二〇七四〇四
地所費		二、五三三三四七
事務費		八八、五六二四三三

事務所費		六四、三八五一四七
廳府縣委員部費		二四、一七七二八六
會員募集費		三五、六八九〇六七
證牌費		九、八六二五二五
待遇費		三、四六六九七七
御慶事獻品費		九五四五二
法人組織費		五八九二五〇
創立諸費		八九七一一二
雜出		七、〇八六七〇一
借入金利子		八、五一八九三九
缺損金 <small>公債證券寶卸差損</small>		二、六三二一八八
過納金返戻		一一六八一四
支出合計		六五〇、七四七七二

兩宮神苑開設ノ爲メ、買收地積二萬百餘坪、民家ヲ撤去スル百八十三戸、其立退建家ノ坪數六千五百八坪、內宮宮域補正ノ爲メ買收地積千八百二十六坪ニシテ、內宮附近山林五十萬八千五百十五坪ヲ買收シ、以テ 內宮ノ風致ヲ添ヘタリ、其後宮域附近ノ山林ハ概ネ保安林ニ編入セラレ、尋デ本會所有山林ハ宮內省ニ買上ラレタリ、又神苑別區トシテ倉田山ノ地積三萬九千餘坪ヲ買收シ、新タニ道路ヲ開設セシモノ約一千間、次デ 神宮撤下御物拜觀所ヲ建設セリ、其建坪九十坪餘、又農業館ヲ建築セシモノ三百十三坪餘、其他倉庫及事務所ヲ建設シ、同四十二年ヲ以テ、古館ノ建築ヲ竣成セリ、同館ハ平家建洋館三百三坪餘ニシテ、前面ノ長サ百九十四尺、側面ノ長サ百四十六尺餘、中央ノ高塔高サ三十尺餘、而シテ館内ノ列品ハ八千四百餘點、之ヲ分類スレバ二十九種ニシテ、上古ノ遺物、歷代宸影、古文書、繪畫、肖像、祭祀器具、服飾、武器等ナリ、農業館ノ列品二萬四千七百餘點、之ヲ分類スレバ三十八種ニシテ、穀菽、菜果、鳥獸、蟲魚、農業用具等ナリ、其細目ハ兩館ノ列品目錄ニ讓ル、上來披陳スル成績ハ本會事業ノ概要ニシテ、今既ニ其目的ヲ達スルヲ得タルハ、皆大方有志

諸君ノ翼成ニ藉リ、洵ニ本會ノ光榮トスル所ナリ

事業經歷概況

- 一、本會ハ明治十九年六月ノ創立ニシテ、宇治山田市ノ有志之ヲ首唱セリ、抑々當時 兩宮ノ實況ハ、民家、宮域ニ隣接シ其醜陋蕪雜、神聖ヲ汚瀆スルノミナラズ、之ヲ往昔ニ徵スルニ、火災ノ虞、洵ニ恐悚ニ堪ヘザルモノアリ、是ヲ以テ民家ヲ撤却シ、宮域ヲ恢弘シ、神苑ヲ開設シ、以テ舊觀ヲ掃蕩セリ、次デ又 兩宮ノ中間ニ歴史徵古館ヲ建築シ、以テ 神德ノ顯揚、國體ノ發揮ニ勉メ、神都全般ノ整備ヲ經營シ、且參拜者ノ便宜ヲ謀レリ
- 二、前項事業ノ目的ハ重大ニシテ、地方一局部ノ資力能ク堪フル所ニ非ザルヲ以テ、明治二十二年事務所ヲ東京ニ移シ、普ク會員ノ召募ニ從事シ、全國協商會同ノ便ヲ謀リ、隨テ會頭、副會頭、評議員、幹事、委員等ヲ置キ、總裁ニ 皇族ヲ推戴セリ
- 三、明治二十二年二月、有栖川宮煥仁親王殿下ヲ總裁ニ仰グノ榮ヲ得タリ、越エテ二十八年一月 殿下薨去、同年六月 同宮威仁親王殿下ヲ總裁ニ推戴シ、終

ニ今日ノ成功ヲ見ルニ至レリ

四、明治二十二年二月、伯爵吉井友實會頭ニ就任、同二十四年四月逝去、同年六月子
爵花房義實副會頭ヨリ會頭ニ就任、次デ同三十六年一月改メテ評議員理事兼
會頭囑託

五、明治二十二年三月渡邊洪基副會頭ニ就任、翌二十三年十一月退任、同三十年一
月男爵周布公平副會頭ニ就任、次デ同三十六年一月改メテ評議員理事兼副會
頭囑託

六、現在ノ評議員及監事就任年次ハ左ノ如シ

評議員

太田小三郎 明治十九年創業以來、總務部長、幹事等ニ推薦、同二十二年二月幹
事囑託、同三十六年一月改メテ評議員兼理事囑託
滿岡勇之助 明治二十二年三月幹事囑託、次デ同三十六年二月評議員兼專務
理事囑託
伯爵土方久元 明治二十二年三月評議員囑託、次デ同三十六年一月改メテ評

議員囑託

田中芳男 明治二十四年一月農業館委員長囑託、同年幹事及農業館監督囑託、
次デ同三十六年一月改メテ評議員兼理事囑託

安江 孝 明治三十年十月事務委員囑託、次デ同三十六年一月評議員囑託
桑原芳樹 明治三十三年一月幹事囑託、次デ同三十六年一月評議員兼理事囑
託

小松原英太郎 明治三十六年一月評議員囑託、同四十一年一月兼理事囑託

斯波淳六郎 明治三十六年一月評議員囑託

水野鍊太郎 同上

山崎直胤 明治二十二年三月三重幹事長囑託、同年十二月ニ至ル、同三十六年
一月評議員囑託

子爵三室戸和光 明治三十九年一月評議員囑託

有田義資 明治四十三年四月評議員囑託

木野戸勝隆 明治四十三年四月評議員囑託

監事

馬場三郎 明治三十六年一月監事囑託

大谷嘉兵衛 明治四十三年五月監事囑託

男爵澁澤榮一 明治二十二年三月評議員兼管財委員囑託、同三十五年十二月

ニ至ル、同四十三年十月十八日監事囑託

七、明治三十六年一月、民法ノ規定ニ基キ財團法人ヲ組織シ、政府ノ認定ヲ得タリ

八、明治三十七年十二月、東京事務所ヲ廢止シ三重事務所ニ合併セリ

九、帝室御下賜

宮内省

一金壹萬圓

一水産物外國輸出表

外 十五點

皇太后陛下

一金貳千五百圓

一金五拾圓

一青銅大花瓶

一對

皇后陛下

一金貳千五百圓

一金五拾圓

皇太子殿下

一金五百圓

一金貳百圓

一白銀香爐

一個

十、皇族方御寄附金品

總裁有栖川宮殿下

一金參千五百五拾圓

一御寫眞

二枚

一御額

一面

一軸物

一幅

- 久邇宮殿下 一金五百圓
- 伏見宮殿下 一金參百圓
- 小松宮殿下 一金參百圓
- 閑院宮殿下 一金貳百五拾圓
- 北白川宮殿下 一金貳百五拾圓
- 山階宮殿下 一金貳百圓
- 梨本宮殿下 一金百五拾圓

華頂宮殿下

一金百五拾圓

十一、神宮司廳補助金ハ、明治二十年ヨリ同二十二年ニ互リ金參萬圓、同三十三年ニ金四萬圓、同三十三年度ヨリ四十四年三月マデ金拾六萬六千九百圓、合計金貳拾參萬六千九百圓ヲ下附セラレタリ

十二、道廳府縣管內寄附金額ハ參拾萬四千參百參拾六圓貳拾五錢六厘ニシテ、其内譯左ノ如シ

北海道廳	一、五三五三九〇	東京府	五三、八七四九〇二
京都府	五、九八四六六一	大阪府	一一、二四五四〇〇
神奈川縣	二〇、九四三〇八二	兵庫縣	二〇、〇九七九一三
長崎縣	八、一四六三〇三	新潟縣	四九〇一〇〇
埼玉縣	五四三六六〇	群馬縣	六八九〇〇〇
千葉縣	一、五五〇四〇〇	茨城縣	四、七〇八七九〇
栃木縣	八八七三二〇	奈良縣	四五〇〇〇

三重縣	六八、五三二七二	愛知縣	一六、四五二二〇
靜岡縣	五、一五〇三七四	山梨縣	三二七九九〇
滋賀縣	一、七二四五〇〇	岐阜縣	五、四三四八〇二
長野縣	七、三九三七二二	宮城縣	一八三五〇〇
福島縣	三、六〇二四一八	巖手縣	六七〇〇〇
青森縣	二、五六八二五	山形縣	六、四七七七八
秋田縣	一、三七〇〇〇	福井縣	四二二九一〇
石川縣	四、二九八八八七	富山縣	四六三一五
鳥取縣	六七七一九七五	島根縣	一、七二一九九五
岡山縣	八、二三〇五九〇	廣島縣	八、八一七二三九
山口縣	二、七四六三〇三	和歌山縣	五、二一〇九〇〇
德島縣	一、六六六二七五	香川縣	一、四四八〇〇〇
愛媛縣	一、二二七一九七	高知縣	三七九〇〇〇
福岡縣	一、三、六五三〇九五	大分縣	五、三二〇三八五

佐賀縣	九九三六八〇	熊本縣	四八九九八五
宮崎縣	五〇〇〇	鹿兒島縣	三三〇〇〇
沖繩縣	四六六七六三	合計	三〇四、三三六二五六

右寄附金ハ其住所氏名ヲ簿冊ニ明記シ之ヲ 神宮ニ奉納セリ其内個人ニシテ
 百圓以上ノ寄附者ヲ舉グレバ左ノ如シ(四位、未滿省略) 但物品寄附ヲ換算セシモノモ
 包含ス

東京府管内

- 壹萬五百圓 男爵 三井八郎右衛門
- 五千圓 男爵 岩崎久彌 四千拾圓 御木本幸吉
- 千圓 子爵 花房義質 七百拾八圓 田中芳男
- 五百圓宛 公爵 島津忠義 公爵 毛利元德 伯爵 藤堂高紹
- 男爵 岩崎彌之助
- 參百拾圓 男爵 澁澤榮一

參百圓宛	侯爵 鍋島直大	侯爵 前田利嗣	伯爵 土方久元
西村虎四郎			
貳百五拾五圓	渡邊洪基	三井八郎次郎	
貳百五拾圓宛	伯爵 佐野常民	公爵 德川家達	侯爵 德川義禮
貳百圓宛	公爵 島津忠濟	侯爵 德川茂承	侯爵 黑田長成
	侯爵 細川護成	伯爵 吉井友實	三井三郎助
	侯爵 山内豐景	杉田幸五郎	
百六拾五圓	三井高保		
	三井源右衛門		
百五拾圓宛	侯爵 池田禎政	伯爵 有馬頼萬	雨宮敬次郎
百貳拾五圓	侯爵 池田仲博	百拾五圓	子爵 山尾庸三
百拾圓	三井武之助		
百圓宛	公爵 山縣有朋	公爵 大山巖	公爵 岩倉具定
	公爵 島津忠重	侯爵 德川篤敬	侯爵 松方正義

京都府管内

大阪府管内

侯爵 松平康莊	侯爵 西郷從道	侯爵 佐々木高行
伯爵 井伊直憲	伯爵 大隈重信	伯爵 後藤象二郎
伯爵 香川敬三	伯爵 田中光顯	伯爵 芳川顯正
子爵 榎本武揚	子爵 杉孫七郎	男爵 岩佐純
男爵 池田謙齋	伊集院兼常	男爵 伊藤方成
服部竹次郎	長井利兵衛	菊地長四郎
小野金六	小川秀信	田中源
三井高生	三井高辰	三井元之助
三井復太郎	田島淺次郎	三井養之助
三井守之助	三井德右衛門	岩崎小彌太

貳百圓	伯爵 大谷光尊	百五拾圓	花輪正摸
百圓宛	伯爵 大谷光瑩	土橋熊次郎	男爵 北垣國道

五百拾圓 鴻池善右衛門
參百圓 藤田傳三郎
百五拾圓宛 久原庄三郎
百拾圓 殿村惠津
百圓宛 井上保次郎

五百圓 右近權右衛門

藤田小太郎 土居通夫
平瀬龜之助 阿部彦太郎
松本重太郎

山口吉郎兵衛
荒川又右衛門

神奈川縣管内

千參百圓宛 大谷嘉兵衛
千貳百圓 原富太郎
千圓宛 茂木保平
八百圓 渡邊福三郎
五百貳拾圓 高島嘉兵衛
五百圓宛 増田嘉兵衛

平沼專藏 山口仙之助
五百拾五圓 平沼トシ子

左右田金作
岡野欣之助

四百圓

白井儀兵衛 安部幸兵衛

參百五拾圓

増田増藏

參百拾五圓

金子政吉

參百拾圓

男爵 周布公平

參百圓宛

原六郎 忽那惟次郎

若尾幾造 前田又平

渡邊玉子 鈴木善右衛門

松阪萬右衛門

川邊儀三郎

福住九藏

落合金次郎

百貳拾五圓

小野光景

貳百圓

中村房次郎

百拾圓

大濱忠三郎

百圓宛

茂木惣兵衛

新井海藏

澁澤義一

田沼太右衛門

平沼亮三

野村洋三

朝田又七

渡邊文七

兵庫縣管内

參百圓宛 子爵 九鬼隆輝

小西新右衛門

貳百五拾圓宛

辰馬 夕キ

鷺尾久太郎

貳百圓宛

小寺泰次郎

小曾根 喜一郎

光村利藻

大江清兵衛

加納治郎右衛門

辰馬半右衛門

伊藤長次郎

平尾源太夫

内藤直康

百七拾圓

澤田清兵衛

百六拾圓

長部文次郎

百五拾圓宛

澤野 定七

岸本豐太郎

和泉萬輔

花木甚右衛門

若林與兵衛

若井源左衛門

若林與左衛門

辰馬 悅藏

山村太左衛門

鎌谷 十郎

内藤卯三郎

百貳拾圓

佐川義右衛門

堀 謙次郎

堀 吉太郎

百拾圓宛

谷 勘兵衛

百壹圓

瀧川 辨三

百四圓

秋岡治郎作

生島五郎兵衛

深澤富右衛門

百圓宛

池 長通

山本龜太郎

喜多伊兵衛

廣瀬 滿正

森本六兵衛

末正久左衛門

泉 仙助

八馬 兼介

嘉納治兵衛

角井辰右衛門

松井與一郎

坂口吉藏

岸田忠左衛門

木原熊吉

岩田五郎左衛門

畑中 甚八

岡田 正造

大塚茂十郎

川口平三郎

卜部八兵衛

斯波與七郎

近藤常三郎

伊藤龜太郎

小川傳次郎

奥藤 研造

高川定次郎

柴原九郎

志水市郎平

西垣勘次郎

富田仙助

瀧田清兵衛

藤本六右衛門

福富達三

平尾學次郎

松尾仁兵衛

梶 源左衛門

武内和三郎

武内利右衛門

本吹利一郎

大熊市右衛門

田淵 新作

橋本江笠

愛知縣管内

百五拾圓 伊藤治郎左衛門

百圓宛 服部小十郎

奥田正香

關戸守彦

渡邊爲次郎

神野金之助

西川宇吉郎

瀧 兵右衛門

中野又右衛門

高橋彦次郎

堀部勝四郎

白石半助

岡谷惣助

伊藤七郎衛

三重縣管内

參百貳圓 奥山中書

參百圓宛 野村四郎兵衛

世古善兵衛

貳百五拾圓宛 北川次郎兵衛

貳百圓宛 野間 園彦

白井清榮門

河村清兵衛

西田七左衛門

村田 德三

山本伊兵衛

浦田長民

山羽九郎兵衛

西田 周吉

島田長兵衛

百七拾五圓 島田政吉

百五拾圓宛 大西菊松

上野 梧一

太田小三郎

百貳拾七圓 滿岡勇之助

百貳拾圓 大西六郎兵衛

男爵 松木美彦

百四圓 伊藤小左衛門

百圓宛 田中ミキ

林 宗右衛門

世古口 喜平治

秋田喜助

橋村惣八

辻村彌八

百六拾壹圓

浦田九左衛門

小川 宗一

平尾彦十郎

百貳拾壹圓

百六圓

橋村正璟

東 孫三郎

松本恒之助

宇仁田 仁兵衛

古田幹太郎

岡村長四郎

橋本八十八

林 ヤヲ

榎本三右衛門

橋爪孫七

丹波修次

堀江德兵衛

吉田善三郎

中西九三郎

宇仁田宗馨

島田長七

久保田 五兵衛

井阪新太郎

山形縣管内	山本五郎兵衛	藤村六郎左衛門	小林久次郎
貳千五拾圓	小林卯助	竹内善壽	青木治助
百圓宛	竹内善四郎	山崎石齋	富澤利七
滋賀縣管内	黒部春平	鹿島則文	
百圓	本間光輝	眞鍋明文	
岐阜縣管内	風間幸右衛門		
百圓	山村徳三郎		
山口縣管内	坂倉又吉		
百圓	村重泰治		
岡山縣管内			

千圓	野崎武吉郎		
百圓宛	黒住宗子	西原陳三郎	金光大陣
静岡縣管内	金光攝胤		
百五拾參圓	小林七兵衛		
福岡縣管内	瓜生卯太郎		
百圓	香川縣管内		
五百圓	琴陵光熙		
佐賀縣管内	石井邦猷		
百圓	右廳府縣管内寄附ノ外		
百圓	外國人ゼーエンクター		

十三、神苑ノ開設ハ、起工以來明治二十四年ニ至リ其功ヲ奏シ、同二十七年之ヲ

神宮ニ獻納シ、次デ同三十三年ニ至リ、外宮北御門口ニ隣接スル民家ヲ購ヒ苑地ヲ擴張シ、同三十七年ニ至リ之ヲ 神宮ニ獻納セリ、其買收地積ハ二萬百一坪餘、立退家屋百八十三戸、其建坪六千五百八坪餘ナリ、之ヲ 兩宮ニ區分スレバ、内宮ニ在テハ買收地積七千五百三十坪、立退家五十六戸、其建坪千七百三十七坪餘、外宮ニアリテハ買收地積一萬二千五百七十一坪、立退家百二十七戸、其建坪四千七百一十一坪ナリ

十四、内宮宮城ノ補正ハ、明治三十五年、同三十九年、同四十三年ニ於テ 宮城ノ區劃ヲ明カニセンガ爲、民有地ヲ買收セシモノ六反二十六步又 内宮附近山林ノ買收及林相ノ改良ハ、明治二十二年、同二十三年ニ於テ、内宮ノ風致ヲ保存センガ爲、五十鈴川ヲ隔テ連互セル丸山、琴ヶ岡、岡田林ノ三字ヲ買收セリ、其反別百六十九町五反十五步ナリ、越テ同三十七年ニハ右所有山林其他 宮城附近岩井田山、栢尾、下館、西山、瀧倉、菩提山、向山、東高原等、總計二百一十一町五反八畝餘歩ヲ保安林ニ編入セラレ、本會所有山林ハ其後宮内省ニ買上ラレタリ

十五、倉田山ハ眺望佳絶ノ勝地ナルヲ以テ、撤下御物拜觀所及徵古館、農業館ノ建

設豫定地トシテ、明治三十三年乃至四十三年ニ於テ地積三萬九千十五坪ヲ買收シ、本市岩淵町ヨリ古市町ニ通ズル五間幅ノ道路ヲ新設セリ、其延長千間餘ナリ。

十六、撤下御物拜觀所ハ、明治三十六年大阪ニ於ケル内國勸業博覽會開設ニ際シ、三重協贊會ト俱ニ之ヲ建設シ、其建坪九十坪餘、敷地千六百四坪、翌年ニ至リ皆之ヲ 神宮ニ獻納セリ

十七、農業館ハ明治二十四年 外宮前ニ建築セシガ、規模狹隘ナルヲ以テ、同三十八年之ヲ倉田山ニ移築ス、其建坪三百十三坪一合ニシテ、事務室及附屬舍ハ二十四坪二合二勺ナリ

十八、徵古館ノ建築ハ倉田山ニ豫定セシモ、多大ノ費用ヲ要スルト、戰役ノ時局ニ鑑ミ、一時本館倉庫ヲ以テ徵古館ニ充用シ列品ヲ觀覽セシメシガ、明治三十九年ニ迄ビ、本館建築ニ着手シ、同四十二年之ガ竣功ヲ告ゲ、同年正遷宮ノ時期ニ於テ開館式ヲ舉行セリ、次デ倉田山ノ造園ニ着手シ、同四十三年土工植樹等其工ヲ完成セリ、徵古館ノ建築ハ平家建洋館ニシテ三百三坪餘、前面ノ長サ百九

十四尺、側面ノ長サ百四十六尺六寸、中央高塔ノ高サ三十尺九寸、其倉庫ハ六十坪ニシテ、附屬家ハ六十五坪餘ナリ

十九、事務所ハ會テ 外宮前ニアリシガ、明治三十八年之ヲ倉田山ニ移築セリ、本屋五十四坪七合五勺、土藏十三坪五合ニシテ、附屬家四十七坪五合ナリ

二十、賓日館ハ、明治二十年二見浦ノ勝地ヲ相シ、敷地千五十七坪ヲ得テ二階家ヲ建築セリ、其建坪ハ二百四坪ニシテ、貴顯紳士ノ來往頻繁ナリシガ、本會整理上之ヲ賣却セリ

二十一、豊川町用地ハ 外宮前ニ接シ、買收地積三千六百二十七坪一合二勺、立退家屋十六戸、其建坪三百二十八坪一合二勺ニシテ、當初、農業館及事務所ヲ建設シ、同三十八年倉田山ニ移築スルト共ニ不用ニ歸シタルヲ以テ之ヲ賣却セリ

二十二、徵古館列品ハ八千四百餘點ニシテ、之ヲ分類スレバ二十九種、其區分ハ第一歴代宸影、貴紳名士ノ肖像、古文書、繪畫、筆蹟、第二上古ノ遺物、第三祭祀器具、第四服飾、儀式、第五家什、文房及遊戲具、樂器、第六貨幣、度量衡、第七武器、馬具、第八建築具、輿車、船舶、第九土俗品等ニシテ、館内ヲ十室ニ分チ、第一室ヨリ第九室ニ列

品ヲ配置シ、第十室ヲ貴賓室ニ充用セリ

二十三、農業館列品ハ二萬四千七百餘點ニシテ、之ヲ分類スレバ三十八種ナリ、其概要ヲ舉グレバ、穀菽、菜果、香辛、茶、砂糖、釀造、貯藏食品、煙草、藥材、油蠟、染料、纖維、製紙、綿絮、各用、牧草、木材、竹材、園藝、種子、有毒有害植物、肥料、農業用具、農産製貯具、鳥獸、昆蟲、繭絲、水産物、水産漁撈具、水産製貯具、其他圖書等ナリ

二十四、創業距今二十有五年、其間評議員、理事、監事、委員、其他ノ職員、功勞不鮮、總裁宮殿下御満足ニ思召サレ、本會頭ハ台命ヲ奉ジ、各其賞品ヲ頒チ、又評議員會ニ於テ全員一致ノ同意ヲ以テ、現在ノ所有土地物件ヲ 神宮ニ奉獻スルト同時ニ本會ヲ解散スルノ議ヲ決シ、總裁宮殿下ノ御認定ヲ仰ギ、茲ニ全ク終局ヲ告グ、但事務所ハ清算人ノ事務室ニ充用ス

二十五、左ノ事項ハ評議員議決ノモノニシテ、業務ノ結了ニ從ヒ清算人ヨリ 神宮ニ奉納ノ手續ヲ執行スルモノトス

一 前總裁宮及現總裁宮御銅像建設

二 神苑會記建碑工事

- 三 神苑會史料編纂
- 四 徵古館窓締及出入口扉増設
- 五 會計收支決算殘餘金品
- 六 神苑會文庫建設設計
- 七 農業館裏手周圍取締工事
- 八 徵古館前面ニ樹立スル杉林及其地所買收
- 九 撤下御物拜觀所前畑地買收
- 二十六 本會待遇規則第十一條第十二條第十三條ハ、尙從前ノ通り神宮司廳ニ於テ繼續セラル、コト

明治四十四年度(自一月至三月)神苑會會務成績

一月以來徵古館囑託ノ學藝委員出張アリテ、列品益完備ヲ告ゲ、庭園ノ擴張、樹木ノ補植其他資日館ノ處分、內宮接續地ノ買收等、百般ノ業務漸ヲ追テ結了ス、因テ先ツ評議員ノ決議ヲ以テ本會解散期ヲ附議確定ス、既ニ解散期日ニ至リ、兩宮ニ特別大々神樂ヲ奉奏シ、總裁殿下ノ令旨ヲ奉ジ茲ニ解散ノ式ヲ舉ゲ、物件ヲ 神宮

ニ奉納シ、以テ其局ヲ結ビタリ、左ニ會計決算表ヲ掲ゲ其要項ヲ明カニス

明治四十四年度(自一月至三月)會計決算

一前年度ヨリ繰越金	五二,三九二,二二三
一歳入	三四,四五五,四八四
内	
神宮司廳補助金	一四,六五〇,〇〇〇
寄附	一,九五〇,五六九
事業收入	一六,八四二,四七五
資財收益	六四一,一二〇
事務所雜入	三七一,三二〇
繰越金及歳入合計	八六,八四七,七〇七
一歳出	二八,五三九,二二二
内	
奠供費	二二〇,〇〇〇

内宮宮域整理費	五六〇〇七〇
興業費	二二、一〇七、七九九
事業維持費	一、八三一、六〇四
事務費	一、八七五、三四八
會費	九五三七
雜出	二、九三四、八六四
一清算人へ引継金	五八三〇八四八五

神苑會史料大尾

(史料追加)

神苑會清算人事務結了報告

明治四十四年四月一日以降元神苑會事務所内ニ清算人事務所ヲ置キテ解散當時ノ殘務ニ從事シ同年十二月二十五日ヲ以テ之ガ一切ノ處分ヲ結了セリ其經理事項左ノ如シ。

- 一 官廳ニ提出スベキ成規ノ條項即チ神苑會解散ノ登記及主務省ニ對シ神宮司廳へ物件引渡ノ報告其他各府縣ニ解散ノ通牒ヲ爲シ且債權債務ニ關シテハ民法ノ規定ニ依リ第三回ノ公告ヲ爲シタル等咸ナ其調理ヲ遂行セリ
- 一 豫定ノ存續事業ヲ實施シ其成業ニ從ヒ 神宮ニ獻納セシモノ左ノ如シ
 - (一) 前總裁宮并ニ現總裁宮兩殿下御銅像ハ東京ニ於テ其鑄造ヲ終ヘ臺石等全部ノ竣功ヲ待ツテ徵古館内ニ奉置スルハ既ニ神宮司廳ノ協定ヲ得タリ
 - (二) 神苑會記ノ碑石ハ豫定ノ時日ニ於テ竣功シ本年十二月之ヲ倉田山庭園ノ南端ニ建設セリ

- (三) 神苑會史料ノ編纂ヲ遂ゲ本年十二月印刷製本ヲ告ゲタルヲ以テ御寄附金ヲ辱フセシ各皇族殿下及神宮ニ獻納シ其他創立以來縁故少カラザル朝野ノ紳士廳府縣長官本會功勞者多額寄附者ニ之ヲ頒チ博物館、圖書館、官幣大社等ニモ各一部ヲ寄贈セリ
- (四) 徵古館窓締ハ一層ノ嚴重ヲ要シ皆鐵柵ヲ施シ又出入口ニ鐵扉ヲ改設スルノ工事ハ豫定ノ如ク進捗シ本年十月之ガ成功ヲ告ゲ且館内陳列用トシテ平治物語繪卷模寫六卷其他數點ヲ購入シ之ヲ同館ニ納メタリ
- (五) 農業館裏手周圍取締工事ハ其豫算金額ヲ獻納シ之ガ實施ヲ神宮司應ニ請托セリ
- (六) 徵古館前面杉林并其地所ハ所有者トノ交渉纏ラザルヲ以テ買收ヲ止メ事由ヲ具シテ神宮司應ノ承認ヲ經タリ
- (七) 撤下御物拜觀所前ノ畑地ハ所有者ト交渉ヲ速了シ難キ事情アルヲ以テ其豫算金額ヲ獻納シ之ガ實施ヲ神宮司應ニ請托セリ
- (八) 神苑文庫ノ設計ハ片山工學博士ニ囑託シ建築圖案既ニ成リ其豫算金貳萬八

千九百貳拾圓及室内ノ設備費金貳千五百圓其他文庫建築監督費共合計金參萬貳千四百貳拾圓ハ之ヲ神宮ニ獻納シ神宮司應ニ於テ其工事ヲ實施セラレンコトヲ請托セリ

(九) 殘餘財産中必用ノ備品ハ神宮司應ニ引渡シ且現金四千圓ハ徵古館修繕準備金トシテ神宮ニ獻納ノ授受ヲ了ヘテ清算人ノ職務玆ニ全ク結了セリ

一會計收支決算

收 入

金五萬八千參百八圓四拾八錢五厘	元神苑會ヨリ繰越金
金貳千五百圓	神宮司應補助金
金貳千六百七拾六圓八拾八錢貳厘	寄附金
金千四百貳拾圓四拾錢	資財收益
金六百五圓六拾七錢六厘	事務所雜入
合計金六萬五千五百拾壹圓四拾四錢參厘	

支 出

金壹萬千六百六拾七圓六拾六錢參厘	徵古館興業費
金貳百四拾五圓九拾參錢	徵古館費
金參百七拾圓九拾參錢	農業館費
金參千百六拾壹圓參拾參錢六厘	清算事務所費
金參百六拾九圓八拾五錢四厘	委員部費
金五拾壹圓參拾參錢	會員費
金六拾五錢五厘	待遇費
金壹萬貳千八百六拾參圓七拾四錢五厘	雜出
金參萬六千七百八拾圓	神宮ニ獻納金
內 譯	
金貳萬八千九百貳拾圓	神苑文庫建築費
金貳千五百圓	同上室內設備費
金千圓	同上建築監督費
金四千圓	徵古館修繕準備金

金參百六拾圓

敷地買收費

合計金六萬五千五百拾壹圓四拾四錢參厘

收支差引殘金無之

右清算事務完了ノ結果ト共ニ清算人事務所ノ閉鎖ヲ報告ス

明治四十四年十二月二十五日

神苑會清算人事務所

代表者 滿岡勇之助

神苑會史料追加終

誤		正	
七八一	三四七	三四五	二四二
一〇一	二三五	二三五	二三五
六〇四	一〇一	六〇四	六〇四
九	二	九	六〇二
迎ハセラル	公議	迎ハセラル	外宮
シ恩ヲ耀シ	獎勵幹	シ恩ヲ耀シ	内宮
先以爲ラク	生以爲ラク	先以爲ラク	向ハセラル
煙火	煙花	煙火	向ハセラル
然レ共	然レドモ	然レ共	公職
リシテリヌイ	レシテリヌイ	リシテリヌイ	シは行

明治四十四年十二月廿五日印刷
 明治四十四年十二月三十日發行

非賣品

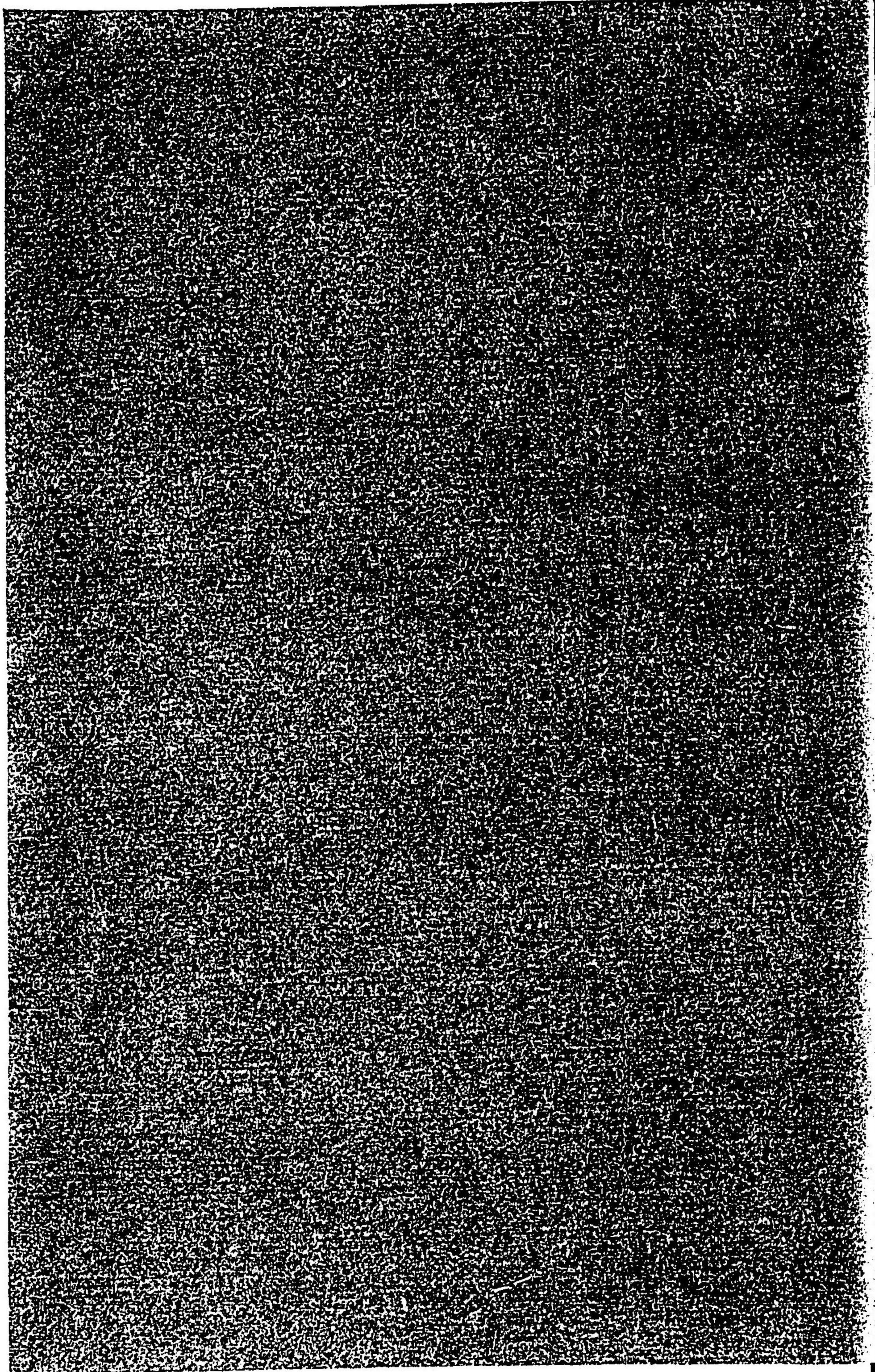
發行所 三重縣度會郡四郷村大字楠部十三番地
 神苑會清算人事務所

右代表者 滿岡勇之助

編纂者 藤井清司
 三重縣宇治山田市大字一志久保町十八番邸

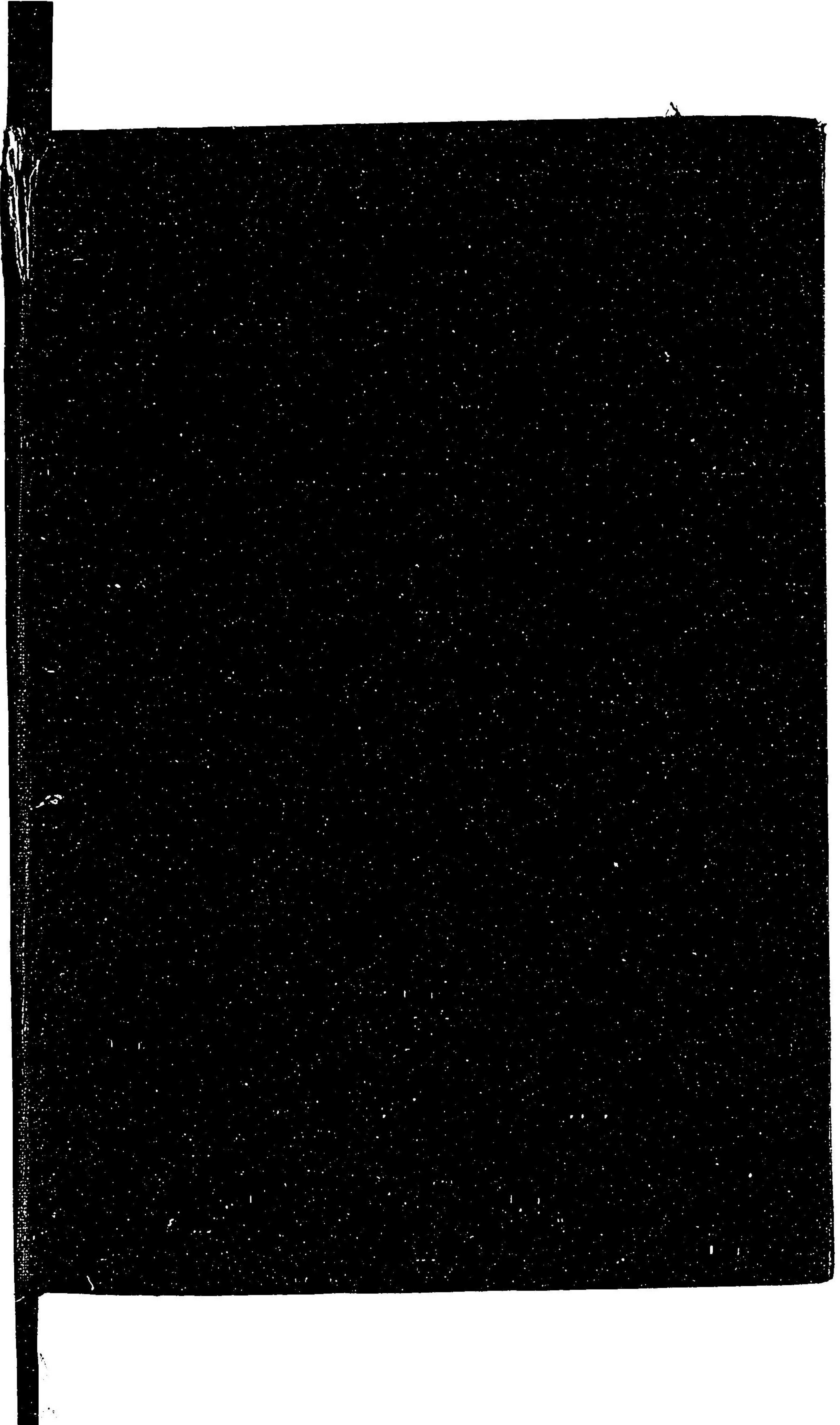
印刷者 赤羽正己
 東京市芝區南佐久間町一丁目二番地

印刷所 東洋印刷株式會社
 東京市芝區愛宕町三丁目二番地



334

167



014139-001-3

334-167

神苑会史料

藤井 清司/編

1冊(995p)

M44, T2

ABB-0414



